

「いじめ未然防止プログラム」作成の目的と経緯

1 課題と目的

(1) 課題

ア いじめ問題の現状

平成25年度の公立小・中・高及び特別支援学校におけるいじめ認知件数は181,028件（文部科学省）であり、いじめの未然防止と対応についての研究及び教育実践は喫緊の課題となっている。

イ いじめ問題への対応

いじめ防止対策推進法等では、その対策として、いじめの早期発見、早期対応、組織的な対応だけでなく、いじめを未然に防止するために人間性に深く迫る教育を行うことが必要とされている。

(2) 目的

いじめ未然防止の主たる担い手である教師の経験、児童生徒の思いを、理論的背景と関連づけることによって、いじめ未然防止に効果的なプログラムを作成する。

2 作成の経緯の概要

(1) 平成25年度

- ・聞き取り調査の実施（7月～12月）
- ・聞き取り調査結果の分析（1月～3月）

(2) 平成26年度

- ・東京都教職員研修センターへの視察（7月）
- ・「いじめ未然防止プログラムの研究」の実施に係る連絡協議会（5月、8月、3月）
- ・研究実践校による実践（5月～3月）
- ・アンケート調査の実施（9月、2月）

3 聞き取り調査

(1) 調査対象

- ・小・中・高等学校の教員11名
- ・大学生17名…児童生徒時代を回想

(2) 調査結果

ア いじめの実態

(ア) いじめのきっかけ

「遊びから発展」「誤解から発展」「迷惑感」「被害者の特性」「喧嘩から発展」
「嫉妬や妬みから発展」

調査対象者の属性

立場	所属	男性	女性	合計
教員	小学校	1	2	3
	中学校	4	0	4
	高等学校	3	1	4
児童生徒	大学生	7	10	17
合計		15	13	28

※平成25年12月現在の対象者数。今後も調査を継続。

(イ) 態様の特徴

小・中学校ではグループ内によるいじめ、高等学校ではグループ間によるいじめが見られる

イ いじめの未然防止

児童生徒に育みたい資質・能力

- ・自分を大切にできる力

「①ストレスマネジメント能力」「②セルフコントロール能力」「③自尊感情・自己効力感」

- ・他者を大切にできる力

「④思いやり・他者理解」「⑤コミュニケーション能力」「⑥思いや考えの表現力」

- ・集団で生活する態度

「⑦仲間づくり・絆づくりに資する力」「⑧自治集団づくりに資する力」「⑨規律性」「⑩道徳性」「⑪相談・支援を求める力」

4 「いじめ未然防止プログラムの研究」の実施に係る連絡協議会

(1) 目的

研究実践校における実践及び調査を行い、いじめ未然防止プログラムの作成に資する。

(2) 構成

当センター所長、同副所長、同主任研究員、同指導主事、高校教育課指導主事、義務教育課指導主事、特別支援教育課指導主事、いじめを決して許さない集団づくり実践事業推進校担当者（小学校6名、中学校6名、高等学校3名、特別支援学校2名）

(3) 活動内容

- ・研究実践校による特別活動プランの実践研究
- ・研究実践校による実態調査及び効果測定の実施

5 いじめ未然防止プログラムの作成指針

- ・“育みたい11の資質・能力”の育成をねらいとした授業案を作成する
- ・授業で育んだ資質を活用する取組案を作成する
- ・児童生徒の主体的な活動を取り入れる
- ・学校やクラスの実態に応じて、授業や取組を選択して実施できるものにする